最新事例から見る情報モラル指導の研究（第一年次）
ーインターネットの危険性を身近に感じられる授業づくりを通してー

長期研究員　北　見　　清

Ⅰ　研究の趣旨

情報社会の進展により，インターネットや携帯電話などの利用が急速に進む中で，スマートフォン（多機能携帯電話）やタブレット型端末などの新しい情報機器が台頭してきた。さらに，SNS※1のような新しい情報サービスがコミュニケーションツールとして普及してきた。

研究協力校の事前調査では，携帯電話や通信機能を持つ音楽プレーヤー，ゲーム機などでインターネットを利用している生徒は84.1％と多く，その48.0％がメールやSNSなどを日常的に利用していた。生徒の非対面コミュニケーションの形態が，通話によるものから，インターネットを介した文字や画像でのやり取りに変化してきていると言える。

さらに，内閣府『平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査』によると，インターネット上の誹謗中傷やいじめ，犯罪や有害情報などのトラブルに巻き込まれた青少年が増えてきている。

このような状況を踏まえ，インターネットを利用する際の判断力・責任感・自制心といった情報活用能力の育成について，十分に生徒に指導していくことが必要であると考えた。

※１　SNS…Social Networking Service。社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービス。

Ⅱ　研究の概要

１　研究仮説

情報モラルを指導する授業において，以下の視点に基づく手だてを講じれば，生徒は当事者意識を身近に持つことができ，判断力･責任感･自制心といった情報活用能力が身に付くだろう。

【視点１】　インターネットトラブル事例の活用

【視点２】　体験型教材の活用

２　研究の内容と実際

⑴　インターネットトラブル事例の活用

新しい情報機器や情報サービスの利便性と，それを悪用したインターネットトラブルの事例について紹介し，インターネット上でコミュニケーションを取る際の注意点などについて考えさせた。

①　GPS機能による個人情報特定の危険性について

スマートフォンや一部のデジタルカメラにはGPS※2機能が付いており，撮影された写真データには「撮影日」「撮影機材」「位置情報」などの情報が付加される。この情報を削除せずにインターネット上に投稿すると，投稿者の個人情報が特定・拡散する可能性がある。

本授業では，生徒に上記を説明し，実際に撮影した写真データから位置情報を取り出して地図上で示した。そして，安易に写真をインターネット上に投稿したことによって，個人情報が拡散したトラブルの具体事例をあげ，投稿の危険性について考えさせた。授業後の生徒の感想には，「写真から，撮った時間や場所が分かることに驚いた」「写真も含めて，必要以上に個人情報を出さないようにする」などが見られた。

※２　GPS…衛星からの信号を受信して現在位置を知るシステム。

②　不適切情報の投稿による影響について

SNS上での，社会常識から外れた行為や犯罪行為などの写真や記事の投稿が原因で，世間から非難を浴びたり，投稿者の個人情報が拡散されたりすることが問題になっている。事例によっては刑事事件や民事訴訟等に発展する場合もある。本実践では，それらの事件を模し，ふざけた行為を撮影した写真や記事を軽い気持ちでSNSに投稿した事例資料を自作した。授業では，これらの行為が将来にどのような影響を及ぼすのか，それを防ぐにはどのようなことに気を付けたらよいのかを生徒に考えさせた。

生徒に個人で考えさせた意見では，「逮捕される」「金を払う」など，事件直後のことに集中していた。しかし，グループ活動で意見を出させると，家族・

友人への影響や進学・就職への影響など，周囲や将来に対する考えが広がり，生徒たち自身が主体的にまとめて発表することができた（**図１**）。授業後の生徒の感想には，「後々までの影響を考えて投稿する内容を選ばなくてはいけない」「周りに迷惑がかかることを十分考えたい」などが見られた。

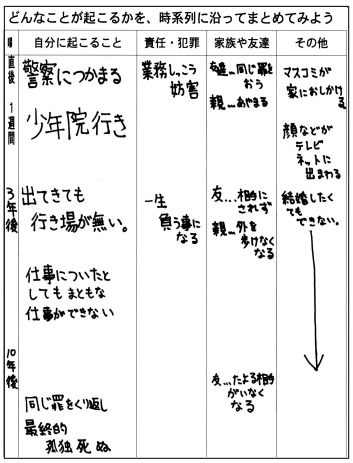

図１ グループ活動で意見を出し合いまとめる生徒

⑵ 体験型教材の活用

従来型のスライドを使った講義形式の授業に加え，NetCommons※3による体験型教材を利用して授業を行い，生徒の理解を促した。

※３ NetCommons…国立情報学研究所で開発された，無償提供されている次世代の情報共有基盤システム。

① 掲示板への書き込み体験について

本授業ではNetCommonsで作成したWebサイトの掲示板を使い，文字を介したインターネット上のコミュニケーションを生徒に体験させた。生徒は，NetCommonsのWebサイトを，個人のIDとパスワードでログインして利用しているので，個人情報等が漏えいしない閉じられた環境の中で安全に学習することができる。

生徒は，インターネットの閲覧には慣れていても，掲示板への書き込みは初めての場合が多く，初めは躊躇していた。しかし，書き込みに慣れた一部の生徒が掲示板の意見にコメントを書き込むと，どんどん書き込みを始め，その後，意欲的な意見の交流につながった。掲示板では，生徒全員が同じ画面を見ているため，意見を共有化でき，話合いを深めることができるという利点がある。生徒が投稿に慣れてくると，笑いをねらった意見や悪口などの投稿が見受けられ，機を見てそれらの投稿に注目させて，周りへの影響や対処の仕方について振り返って考えさせることができた。授業後の生徒の感想には，「相手の気持ちを考えて言葉を選ぶことが大事」「楽しいものの中にも怖さがあるので，しっかりと理解することが必要」などが見られた。

３ 授業の考察（事後アンケートより）

生徒には，授業の前後に情報モラルについてのアンケートを行った（事前アンケートは６月に一斉実施，事後アンケートはそれぞれの授業の１～２か月後を目安に実施）。

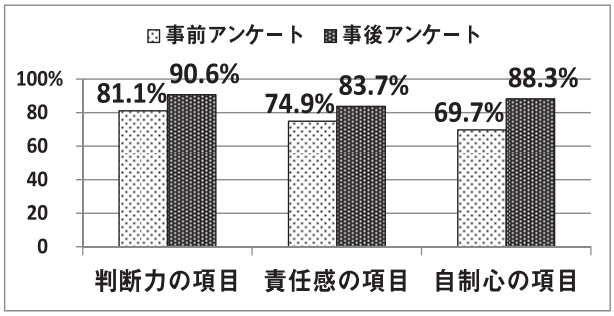

図２ 事前・事後のアンケートの結果より

判断力・責任感・自制心の項目ごとに分類すると，それぞれの項目で向上が見られた（**図２**）。特に，「トラブルに巻き込まれたり，困ったことが起きたりした場合は，信頼できる大人に相談する（判断力）」や，「インターネットの向こう側には，常に人がいることを意識する（自制心）」で向上が見られた。インターネットトラブルの現状や，情報発信の疑似体験など，授業の内容がより身近であったことから，生徒自身の理解が深まったと考えられる。

Ⅲ 研究のまとめ

１ 研究の成果

最新のインターネットトラブル事例を授業の題材として扱ったり，NetCommonsを活用して生徒に疑似体験させたりすることで，生徒の興味・関心を引き出し，当事者意識を持って主体的に考えさせることができた。

２ 今後の課題

今回の授業実践では，主にインターネットの危険性について扱ったが，今後は危険性を理解させた上で，生徒がインターネットを目的に応じて活用していく指導を行う必要がある。